兵 庫 県 の 地 震 活 動

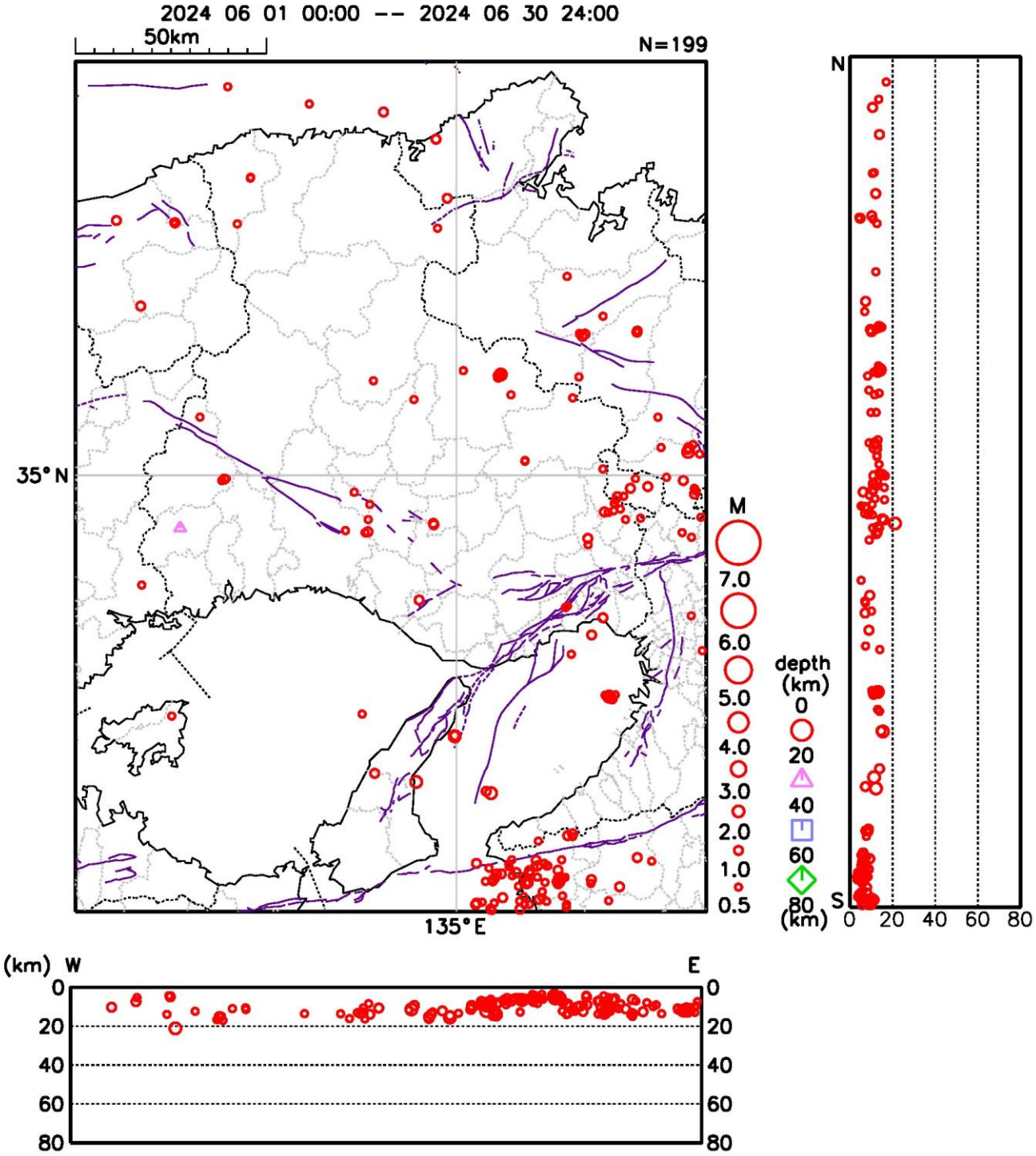
2024 年（令和６年）６月

震央分布図・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
兵庫県で震度１以上を観測した地震一覧表・・・・・・・・２
兵庫県で震度１以上を観測した地震の震度分布図・・・・３
一口メモ
　南海トラフ地震とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

＊　「兵庫県の地震活動」は月１回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
＊　この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
＊　本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
＊　また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神 戸 地 方 気 象 台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図　右上：東から見た断面図　左下：南から見た断面図
注）分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概　況

－－６月の概況－－

今期間、兵庫県内では震度１以上の地震を１回観測しました。

3 日 06 時 31 分 石川県能登地方の地震（深さ 14km、M6.0、前掲震央分布図範囲外）と 3 日 06 時 33 分 石川県能登地方の地震（深さ 15km、M3.4、前掲震央分布図範囲外）により、豊岡市、朝来市、尼崎市、西宮市、加古川市、丹波市で震度１を観測しました。

兵庫県で震度１以上を観測した地震一覧表

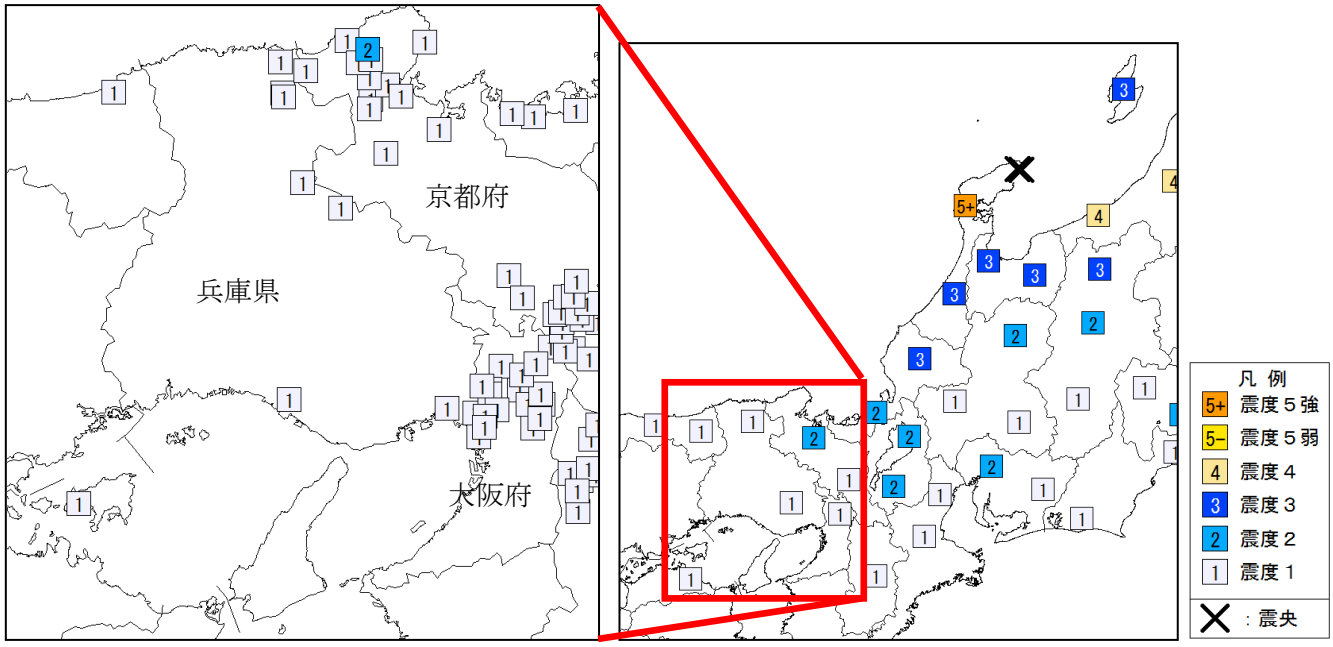
地震発生日時	震央地名	北緯	東経	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ	全国最大震度
各地の震度（兵庫県内）						
6 月 3 日　6 時 31 分	石川県能登地方	37゜28.0'	137゜18.1'	14km	M6.0	震度 5 強
6 月 3 日　6 時 33 分	石川県能登地方	37゜27.4'	137゜20.3'	15km	M3.4	
震度１：豊岡市桜町,豊岡市城崎町＊,豊岡市中央町＊,朝来市山東町＊,尼崎市昭和通＊ 西宮市宮前町,加古川市加古川町,丹波市青垣町＊						

震源要素は、後日修正される場合があります。なお、＊印は気象庁以外の地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

6 月 3 日 06 時 31 分と 06 時 33 分の石川県能登地方の地震はほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震源を複数記載しています。

兵庫県で震度１以上を観測した地震の震度分布図

6 月 3 日 06 時 31 分と 06 時 33 分に発生した、石川県能登地方の地震による震度分布図（左図：観測点震度、右図：地域震度※）。×印は震央を表す。



6 月 3 日 06 時 31 分と 06 時 33 分の石川県能登地方の地震はほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震央を複数記載しています。

※ 地域震度：国内を 188 の地域に区分し、その地域内の震度観測点のうち最大の震度を観測した地点の震度を地域震度としています。兵庫県は、北部、南東部、南西部、淡路島の４地域に区分されています。

一口メモ　南海トラフ地震とは

【 南海トラフ地震とは 】

駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。この南海トラフ沿いのプレート境界では、①海側のプレート（フィリピン海プレート）が陸側のプレート（ユーラシアプレート）の下に１年あたり数 cm の速度で沈み込んでいます。②その際、プレートの境界が強く固着して、陸側のプレートが地下に引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます。③陸側のプレートが引きずり込みに耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がることで発生する地震が「南海トラフ地震」です。①→②→③の状態が繰り返されるため、南海トラフ地震は繰り返し発生します（図１）。

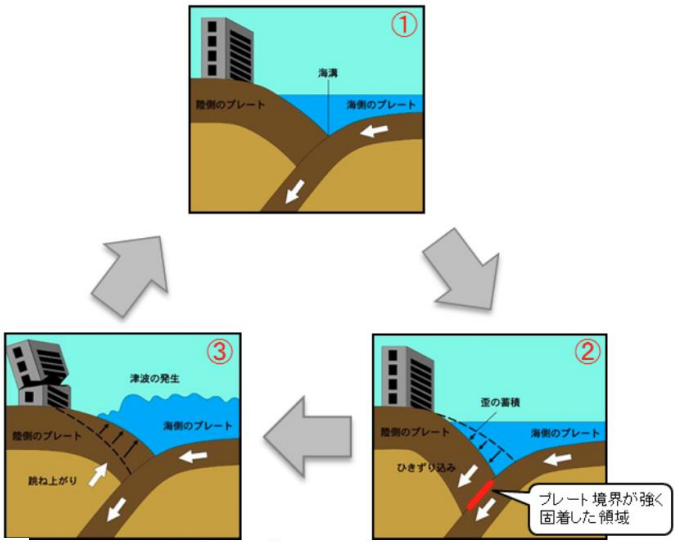


図１　南海トラフ地震の発生メカニズムの概念図

【 南海トラフ地震の発生パターン 】

南海トラフ地震の過去事例を見てみると、その発生過程に多様性があることがわかります（図２）。宝永地震（1707 年）のように駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、マグニチュード８クラスの大規模地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりしています。さらに、隣接する領域で地震が続発した事例では、安政東海地震（1854 年）の際には、その 32 時間後に安政南海地震（1854 年）が発生し、昭和東南海地震（1944 年）の際には、2 年後に昭和南海地震（1946 年）が発生するなど、その時間差にも幅があることが知られています。

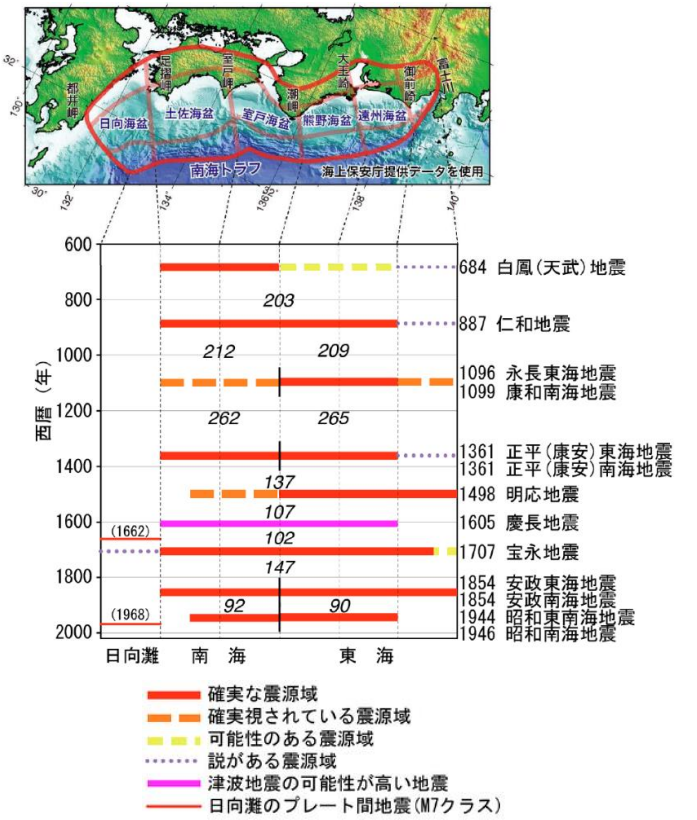


図２　過去に発生した南海トラフ地震の震源域の時空間分布

【 次の南海トラフ地震はいつ？ 】

南海トラフ地震は、概ね 100～150 年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）及び昭和南海地震（1946 年））が発生してから約 80 年が経過しています。南海トラフ地震の今後 30 年以内の発生確率は 70～80 %（令和６年１月現在）となっており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきています。南海トラフ地震の発生の可能性の高まりについてお知らせする情報については次号以降に掲載します。

（参考）気象庁ホームページ「南海トラフ地震とは」

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nteq/nteq.html

南海トラフ地震とは